

新年明けましておめでとうございませう。市民の皆さんには健やかに輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、わが国の経済は国際的な金融危機の影響を受け、厳しい状況が続きました。特に地方においては、バブル崩壊後やつとほのかな光明が見え始めた矢先でしたが、大変深刻な状況に陥っています。また昨年8月の総選挙では政権交代という大きな動きもありました。新たな政権は国民の民意が反映された政権であるが故に国民の期待も大きく、マニフェスト実施のための財源問題など難しい舵取りが求められています。

このような年明けですが、本年3月31日には江迎町、鹿町町との合併が実現し、新しい佐世保市が誕生します。それぞれに産業や文化等において歴史と伝統がある町ですので、合併後も特色ある地域づくりに一体となつてまい進していきたいと思ひます。

石木ダム建設については、慢性的な水不足に悩む佐世保市民の悲願です。国土交通省に石木ダムの公益性、必要性を改めて審査していただき、ご同意いただけない地権者の方々と話し合いを促進させるため、昨年11月、長崎県と共に事業認定の申請に踏み切りました。今後とも地権者の方々にご理解をいただくよう努めてまいりますので、市民の皆さんのご支援とご協力をよろしくお願ひします。

本市産業の大きな柱である観光物産の振興については、本年秋ごろ、本市、雲仙市、長崎市の3市共同で進めているアンテナショップが福岡市の中心部にオープンする予定です。九州最大の経済圏である福岡市で、佐世保の特産品の展示販売や旬の食材情報、観光情報の発信などを積極的に展開していきたいと思ひます。

さらに観光の振興については、昨年7月にリニューアルオープンした十九島水族館「海きらら」が市民や観光客の皆さんに大変好評で、当初計画していた入場者数の約2倍の方々にご来場いただくなど、順調なスタートを切ることができました。本年もこの海きららを中心とした「十九島観光」や、行動展示等で入場者数も回復している「亜熱帯動植物園」、さらにはハウステンボスに開設する「龍馬伝館」など、本市観光を全国に発信していきたいと思ひます。

前畑弾薬庫の針尾島弾薬集積所への移転・集約については、佐世保港内3漁協をはじめ関係地元の方々のご理解とご協力をいただきながら取り組んでいくとともに、住民の安全安心や地域の振興に資する取り組みを先行して進めていきたいと思ひます。また本年3月末には、ジュリエットベースンの埋め立て工事が完了し、さらには西海市の横瀬貯油所におけるLCAC施設整備もいよいよ最終段階に入りますので、崎辺地区の利活用も含め、「港のすみ分け」の次の段階への準備に取り掛かる時期になってきます。

本年3月には、待望久しかった西九州自動車道が佐世保中央インターチェンジを経て相浦中里インターチェンジまで延伸し、佐世保中央インターから相浦中里インター間については無料で供用開始されます。この道路開通は、合併地域を含めた佐世保市北部地域全体の振興や道路渋滞の解消など大きな効果が期待されています。

一昨年から実施していた市政懇談会は12月の黒島地区をもって全24地区を一巡しました。この懇談会は地域の皆さんと市が地域の持つ課題を共に語り、解決していくなど、大変意義あるものと確信していますので、市民第一主義の考えを基調として、順次2巡目を開催していきたいと思ひます。私は市職員に対し、常に「チャレンジ(Challenge)、挑戦」「チェンジ(Change)、変革」「コミュニケーション(Communication)、相互意思疎通」の3つのCを意識して市民の皆さんと接し、業務を遂行していくように話しています。本年もこの「3C」を大事に、市民の皆さんと協働で「進化する行政」を目指していきますので、力強いご支援と温かいご指導を賜りますようお願いいたします。



チャレンジ、チェンジ、コミュニケーション
3Cで進化する行政を

佐世保市長 朝長 則男